絶滅危惧Ⅰ類　キセルゴケ科

クマノゴケ

Theriotia lorifolia Card.

全国カテゴリー；絶滅危惧Ⅰ類

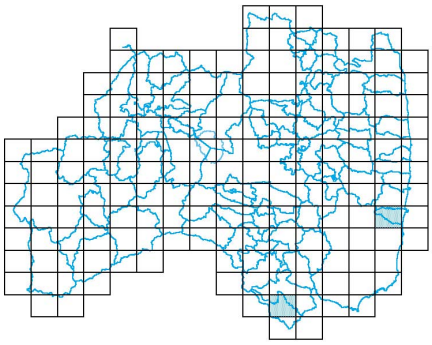
【選定根拠】　②全ての生育地で生育条件が悪化

【形　　態】　植物体は暗緑色で水辺岩壁に着生してマットを形成する。葉はひも状で長さ６～12㎜、湿ると開出するが、乾くと内側に巻く。中肋は広く葉身の大部分を占め、葉身の断面は楕円形に近く、背腹の表面および中央に各１層の葉緑細胞があり、それらの間は各数層の透明細胞で占められる。さくはみられにくい。

【分　　布】　本州、四国、九州のほかインド、中国、朝鮮に分布する南方要素である。

【県内の分布、生育状況】　渓流の水しぶきをかぶる岩壁に暗緑のマットをつくる。矢祭山、木戸川渓谷、背戸峨廊、原町市大原から報告がある。

【生育に影響を与えている要因】　河川の改修、河川の氾濫、河川の水量不足、水質汚染



絶滅危惧Ⅰ類　ホウオウゴケ科

ジョウレンホウオウゴケ

Fissidens geppii M. Fleisch.

全国カテゴリー；絶滅危惧Ⅰ類

【選定根拠】　②全ての生育地で生育条件が悪化

【形　　態】　ホウオウゴケの仲間は葉が茎に対して２列にひろがり、葉の基部は下部で２片に分かれて茎を抱くという特徴がある。本種の葉縁は透明な長い舷細胞で全周が縁取られ、舷細胞は断面で２－数細胞の厚さがある。中肋は葉頂近くに達する。さく柄は茎の頂部の葉腋に１～２本、発育の悪い個体では見あたらないことが多い。

【分　　布】　本州、四国、九州、伊豆七島のほか、朝鮮、台湾、ボルネオ、ジャワ、スマトラ、インドに分布する。

【県内の分布、生育状況】　八溝山山麓の渓谷で知られている。水辺の地上に生育していたが、最近、数回にわたる再調査では確認されていない。八溝山は太平洋側では生育地の北限である。

【生育に影響を与えている要因】　河川の氾濫、河川の改修、森林伐採

【特記事項】　林道の整備にあたっては極度の地形改変を避けるようにする。

【主要文献】

Iwatsuki, Z. and T. Suzuki, 1982. A Taxonomic Revision of the Japanese Species of *Fissidens* (Musci) Journ. Hattori Bot. Lab. 51：329-508.